

令和6年3月15日

## 新たな看護学校の設置に向けた検討の終了経緯について

医療法人社団 心優会  
理事長 三輪 英則

当法人は、これまで、新課程での看護専門学校（以下「新看護学校」といいます。）の設置に関して、小樽市、小樽市医師会との間の「小樽市看護学校検討協議会」（以下「協議会」といいます。）を通じて、その実現に向け全力で取り組んでまいりました。しかしながら、検討を重ねた結果、現状において新看護学校の新設は困難であるとの結論に至りました。

もとは小樽市側からの依頼にてこのプロジェクトをお受けし、以降、心血を注いでその実現に向けて取り組んでまいりましたが、結論として成就に至りませんでしたこと、心よりお詫び申し上げます。

当法人としては、かかる新看護学校の設置に関する交渉の経過や内容については、本来、可能な限り地域の医療関係者や学校の新設に期待されていた方々をはじめとした地域住民の皆様と随時情報共有しながら計画を進めるべきであるため、協議会を公開で開催したく要望してまいりましたが、その要望は事情により叶いませんでした。

このままでは、当法人が上記の結論に至った経緯について、地域住民の皆様にご誤解を生んでしまう等の可能性がありますので、この点に関して、以下のとおりご説明申し上げます。

### ① 協議会の設立経緯について

当初の経緯といたしましては、学校法人共育の森学園小樽看護専門学校と医師会看護学校の閉鎖により、小樽市の看護師育成が滞ることを懸念した小樽市側からの依頼を受け、新看護学校の設立を目指すことになりました。これは、当法人の利益のためではなく、当法人がお引き受けしなければ将来の小樽の地域医療が根本から揺らぐ可能性が高いと考えたからです（事前に複数の医療機関に打診するも、いずれも断られたと聞いております。）。

小樽市含めこの当時に関係者間で掲げられた「オール小樽」というスローガンは、地域医療を守るための学校を設立するために一致団結するための理念であったと我々は受け止めています。

### ② 交渉の経緯について

令和2年の交渉当初から、当法人は、イニシャルコストの負担は約1.5億円まで、ランニングコストの負担（赤字）は年間2千万円まで、それぞれ許容するが、かかる金額を大

きく超える金銭負担は困難である旨、小樽市及び協議会に対して明確にお伝えしておりました。

地域住民の皆様方もご存じのことと存じますが、当初、小樽市側から「ウイングベイ小樽への入居」を打診され、この点については当法人も異議がなかったため、小樽市が、先行してウイングベイ小樽を運営する株式会社小樽ベイシティ開発（以下「OBC」といいます。）との交渉に入りました。この時、小樽市からは、「市が先に OBC と交渉するので心優会が OBC と直接交渉するのは避けてほしい。」と伝えられておりました。

以降、当法人は、かかる小樽市側の意向を踏まえて、OBC との直接交渉は避け、小樽市その他の関係者との打ち合わせを続けてまいりました。

上記のやり取り以降、小樽市から当法人に対して特段の状況報告や相談等は何らなかったため、当法人としては、OBC との交渉経過に著変はないと考えておりましたが、令和 5 年 6 月 20 日、小樽市から突如、当法人に対して、OBC との直接交渉を求める文書が提示されました。

後になって、市が仲介する形での当法人への転貸は法的問題もあり困難になったとの説明を小樽市から受けましたが、上記の文書提示の時点では当該提示に至る経緯の説明を何ら受けておらず、また、令和 8 年度の開校に向けて既にスケジュールに余裕がない状況であったため、当法人としては非常に困惑しました。とはいえ、小樽市にもやむに已まれぬ事情があったのだらうと推察し、上記の小樽市の意向を踏まえ、小樽市との間で新たな条件設定の下、即座に OBC との直接交渉を始めました。

### ③ OBC との交渉について

ウイングベイへの入居について、各新聞紙上で交渉断念の理由が取り沙汰されておりましたが、それらは理由の一部でしかありません。

まず、OBC から当初提示された入居に係る改装コストが極めて過大（新築並みの坪単価提示）であり、当該提示条件で入居することは現実的ではないものでした（なお、誤解なきよう指摘させていただきたいのですが、当法人としては、決してこの点に関して OBC を批判する意図はありません。かかる条件が交渉のスタートであり、そこから不要なものをそぎ落としたり図面を修正したりして、双方が意見をすり合わせて妥結を目指すという流れが通常の交渉の姿であろうと考えます。）。

諸問題を検討する中で、最終的には昨年 9 月に OBC から交渉終了を通告されましたが、もとより、わずか 3 か月ですべてのパッケージをまとめるのは時間的に不可能でした。また、仮に時間的な猶予があったにせよ、ウイングベイに入居することについては、おそらくコスト面等の負担について折り合いがつかず不可能だったであろうと評価しています。

#### ④ 新築移転案について

昨年6月20日以降、OBCとの直接交渉が不調に終わった場合のオプションとして、別施設への賃貸入居も検討いたしました。しかしながら、大規模改装なしに移転可能な物件がなく、現校舎は老朽化が著しく利便性が非常に悪いため、新看護学校の新築移転を検討いたしました。

この点、当法人が運営する野口病院が数年内に駅前再開発のために新築移転しなければならなかったため、そこに新看護学校を上乗せするという案を検討いたしました。

しかし、昨今の資材高騰、人件費高騰及び働き方改革等の諸事情が相まって建築コストが暴騰しており、仮に公的な補助金等をいただいたとしても約7億円もの予算が不足することが判明いたしました。当法人としては、不足金額があまりに膨大であり、地域医療に貢献しつつそれだけのイニシャルコストを継続的に拠出することは不可能と判断せざるを得ませんでした。

これから地域医療は将来に向けて維持が難しくなっていく可能性が高いと私は考えています。自力で看護人材を確保できない地域は病床を維持できなくなっていくリスクが高い、その観点から、小樽に「働きながら通える」看護学校が必要だと考えてこれまで努力してきました。

なぜ当法人がこの計画に心血を注いできたか。それは、当法人がこれまで実際に看護学校がなくなった地域で看護師を確保するのがどれだけ困難かについて身をもって経験してきたからです。一部のメディアによれば、当時の当法人の見通しが甘かった等のご批判があるようですが、新型コロナウイルス感染症の発生以降の社会・経済状況の変化や、デフレからインフレへの時代の変化等を予期できなかったことを見通しの甘さと批判されるのであれば、大変申し訳なく思います。しかしながら、当法人としては、これまで、地域のために真摯かつ全力で取り組んできたことははっきり申し上げておきます。

新看護学校の設立に協力することは断念せざるを得なくなりましたが、当法人としては、違う形であっても今後とも地域医療に微力ながら貢献できますよう努力してまいります。

関係各所におかれましてはご理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上